

# 地域連携アクティブスクール 評価報告書



平成27年7月

千葉県教育庁  
企画管理部県立学校改革推進課

## はじめに

県教育委員会は、平成 24 年度以降の県立学校改革の基本的な考え方を示した『県立学校改革推進プラン』を平成 24 年 3 月に策定しました。その中で、多様な生徒を受け入れ、地域とともに生きる社会人を育成する新たなタイプの学校を「地域連携アクティブスクール」として位置づけ、平成 24 年度、県立泉高等学校と県立天羽高等学校に設置しました。

両校では、文部科学省から委嘱を受けて取り組んだ実践研究（平成 21～22 年度）の研究結果等を踏まえ、「学び直し（学ぶ意欲に応える学習指導）」や「実践的なキャリア教育」、「地域との連携」などの教育システムを導入し、着実に成果を上げてきています。

そこで、平成 26 年度、両校への設置から 3 年目を迎え、在籍生徒全員が設置後の入学生となったことなどから、本県の新たなタイプの学校としてスタートしたアクティブスクールが、これまで以上に県民のニーズに応え、より一層魅力ある学校となるよう評価を行うこととしました。

具体的には、

- これまでの両校の取組状況を整理するとともに、志願状況や中途退学者数などの基礎データを集約する。
- 新たに配置されたキャリア教育支援コーディネーター及びスクールソーシャルワーカーの活動状況や配置による効果等をまとめる。
- 生徒及び保護者を対象として、志願理由や学校生活での満足度、アクティブスクールへの期待等のアンケート調査を実施する。
- 両校の近隣中学校の教員を対象としてアクティブスクールへの期待や独自の入学者選抜等のアンケート調査を実施する。
- 両校の近隣大学や周辺企業から意見聴取を行う。

などにより、成果と課題を抽出するとともに、今後の展開について検証を行うこととしました。評価の実施に当たっては「自立した社会人の育成に係る連絡会議※」においても評価方法やアンケート結果等について協議を行いました。

今後は、この評価結果を踏まえ、引き続き地域連携アクティブスクールの魅力づくりに努めてまいります。

---

※ アクティブスクールの実践等で得られた成果について設置校等が情報を共有し、課題の解決に向け協議をすることで、各校の教育活動の充実を図ることを目的として設置された会議

# 目 次

<b>I 地域連携アクティブスクールの概要</b> .....	1
1 設置に至る経緯	
2 『県立学校改革推進プラン』での位置づけ	
3 実施プログラムによる設置	
<b>II 地域連携アクティブスクールの取組状況</b> .....	3
1 学び直し（学ぶ意欲に応える学習指導）	
2 実践的なキャリア教育	
3 地域との連携	
4 独自の入学者選抜	
5 基礎データ	
<b>III キャリア教育支援コーディネーターの活動状況</b> .....	8
1 千葉県立泉高等学校	
2 千葉県立天羽高等学校	
<b>IV スクールソーシャルワーカーの活動状況</b> .....	10
1 千葉県立泉高等学校	
2 千葉県立天羽高等学校	
<b>V 地域連携アクティブスクールの成果と課題</b> .....	12
1 学び直し（学ぶ意欲に応える学習指導）	
2 実践的なキャリア教育	
3 地域との連携	
4 独自の入学者選抜	
5 支援体制	
（1）キャリア教育支援コーディネーター	
（2）スクールソーシャルワーカー	
（3）学習サポートボランティア	
<b>VI 地域連携アクティブスクールの今後の展開</b> .....	14
1 魅力ある学校づくりに向けた改善点等	
2 今後の新たな設置について	
<b>【資料編】</b>	
資料Ⅰ 生徒・保護者アンケート調査結果 .....	16
資料Ⅱ 中学校対象アンケート調査結果 .....	24
資料Ⅲ 学習サポートボランティアからの意見聴取結果 .....	27
資料Ⅳ 企業関係者からの意見聴取結果 .....	29
資料Ⅴ 中学校時代長期欠席していた生徒の追跡調査結果 .....	30

## I 地域連携アクティブスクールの概要

### 1 設置に至る経緯

経済状況の悪化や非正規雇用者の比率の拡大など社会が大きく変化する中、学校から社会・職業への移行過程が長期化、複雑化（不安定化）しています。そのため、小学校から大学まで一貫したキャリア教育・職業教育の必要性や、様々な困難を抱えながらも意欲のある生徒を社会へ送り出すための教育の重要性が指摘されています。

また、本県の高校進学率は 98%に達し、生徒の都市部への集中や郡部校の小規模化、地域産業・地域社会の担い手育成など、本県独自の課題も顕著になりつつあります。

そして、県立高校には、多様な生徒それぞれの個性や進路志望に応じて、個々の生徒の能力を高め、社会に貢献する人材を育成し、社会や地域のニーズへ対応することが、より一層求められています。

このような状況を踏まえ、本県では文部科学省から平成 21・22 年度の 2 年間「新時代に対応した高等学校教育改革推進事業」の委嘱（平成 22 年度は、「地域・生徒のニーズに応じた高等学校づくりに関する取組」の委託）を受け、実践研究を行いました。

本研究では、研究校として 4 校を指定し、地域や関係機関と連携し、学ぶ意欲や志を持った生徒に、これまで以上にきめ細かく「学び直し」や「実践的なキャリア教育」を行い、地域のかげがえのない一員として、地域とともに生きる社会人を育成する、本県の新たなタイプの学校である「地域連携アクティブスクール」をテーマとして、実践や協議を重ねました。

その結果、高等学校を取り巻く状況の分析に基づき、「地域連携アクティブスクール」の目指す「理念」や「方向性」、「理念」の具体化に向けた方策等が、平成 23 年 1 月に報告書としてまとめられました。

一方、今後の魅力ある高等学校づくりの在り方について検討するために設置された「魅力ある高等学校づくり検討委員会」においても、地域連携アクティブスクールの検討が行われ、平成 22 年 3 月に同委員会から提出された報告書では、「地域とともに生きる自立した社会人の育成を目指し、キャリア教育など、きめ細かい指導を行う地域連携アクティブスクールの設置は必要」また「設置に当たっては、地域の小・中学校や企業等との連携を図るとともに、教育環境を整備することが重要」との報告をいただきました。

また、平成 22 年 3 月に策定された千葉県教育振興基本計画『みんなで取り組む「教育立県ちば」プラン』では、地域連携アクティブスクールの設置について、「地域との協同により、社会とのつながりを重視して、一人一人の生徒に応じた「学び直し」や「実践的なキャリア教育」を行い、これまで十分に発揮しきれていなかった生徒の能力を引き出し、コミュニケーション能力や倫理観等を養い、地域と共に生きる自立した社会人の育成を目指す新しいタイプの学校の設置に向けた検討を進める」こととしました。

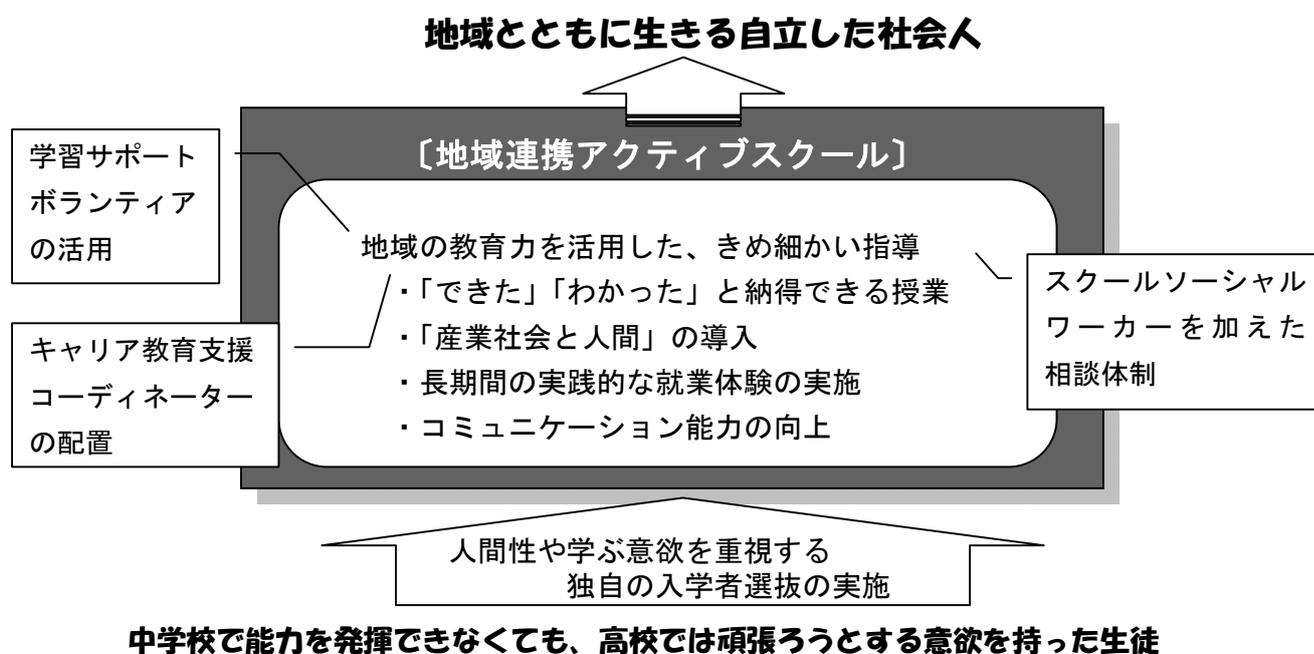
そして、このような研究結果や報告、県の施策等を踏まえ、平成 24 年度以降の県立学校改革に関する基本的な考え方を示した『県立学校改革推進プラン』（平成 24 年 3 月策定）（以下「プラン」という。）において、本県の新たなタイプの学校として、地域連携アクティブスクールの設置を示しました。

## 2 『県立学校改革推進プラン』での位置づけ

プランでは、地域連携アクティブスクールを「中学校で能力を発揮できなくても、高校では頑張ろうとする意欲をしっかりと受け止め、地元企業や大学と連携するなど地域の教育力を活用し、明るく活力ある高校生活が送れるようにするとともに、地域の期待に応える自立した社会人として社会に送り出していくシステムを備えた新たなタイプの学校」と定義づけ、具体計画を、

- 地域バランスや学校の状況を踏まえ、地域連携アクティブスクールを4校程度設置します。
- 学ぶ意欲に応える学習指導や、充実したキャリア教育など、新たなタイプの学校の理念を具現化する仕組みを整備します。
- 地域との多様な連携を進めながら、規範意識を高め、自立した社会人の育成に向けたきめ細かな指導を実践します。

と定め、そのイメージを次のように示しています。



## 3 実施プログラムによる設置

プランは、具体計画である実施プログラムにより推進することとしており、これまで第1次及び第2次実施プログラムを公表しました。

地域連携アクティブスクールについては、プランと同時に公表した第1次実施プログラムにおいて県立泉高等学校及び県立天羽高等学校の2校に平成24年度設置、また平成26年3月に公表した第2次実施プログラムにおいて県立船橋古和釜高等学校及び県立流山北高等学校の2校に平成27年度設置することとしました。

県立泉高等学校及び県立天羽高等学校は、平成26年度に設置から3年目を迎え、在籍生徒全員がアクティブスクール設置後の入学生となりました。

## Ⅱ 地域連携アクティブスクールの取組状況

地域連携アクティブスクールとしての取組状況を、「学び直し」「実践的なキャリア教育」「地域との連携」「独自の入学選抜」の4つの観点から、泉高校、天羽高校の両校にまとめていただき、併せて基礎データを整理しました。

### 1 学び直し（学ぶ意欲に応える学習指導）

#### (1) 泉高等学校

##### ア 学校設定教科「ベーシック」の中の学校設定科目「ベーシックⅠ」

学び直しは、学校設定科目「ベーシックⅠ」を軸として実施しています。この科目は、1年生を対象として週3時間（3単位）の授業として行い、国語、数学、英語の3教科を各1時間ずつ充当しています。

学習に臨む態度と学習内容の理解度には相関関係があると考えられることから、実施に当たっては、2人によるチームティーチングで行い、主担当が教科指導、副担当が「学ぶ姿勢」の指導を担当しています。

「ベーシックⅠ」の学習については、生徒から肯定的な評価があるとともに、科目毎に実施している到達度テストにおいて得点率の上昇がみられるなど、実施による成果が確認されています。

##### イ 少人数授業と習熟度別授業の実施

高校での学習内容の定着を図るため、第1学年及び第2学年では、国語、英語、数学を始め、1クラス20人程度の少人数授業を実施しています。特に、数学に関しては、習熟度別授業も併せて実施しています。

##### ウ 高大連携

近隣の東京情報大学との連携により、教職課程を履修している学生を学習サポートボランティアとして派遣していただいています。「ベーシックⅠ」の指導にあたり教員のチームティーチングを行い、生徒の質問に答えるなどきめ細かい指導をしています。

#### (2) 天羽高等学校

##### ア 学校設定教科「学び直し」の中の学校設定科目「ステップアップ」

学び直しは、学校設定科目「ステップアップ」を軸として実施しています。この科目は、全校一斉のドリル形式の授業（自学自習）として、毎日午後の授業の開始前20分間に実施し、国語、数学、英語、時事問題を学習しています。

なお、よりきめ細かい指導を行うため、3名の教員によるチームティーチング（木曜日は、学生サポートボランティアも参加）で実施しています。

##### イ 少人数授業や習熟度別授業、チームティーチングの実施

第1学年は、一人一人の生徒に目を配り、細やかな指導を実践するため、全ての授業を1クラス20人程度（科目によっては5～6人）の少人数あるいはチームティーチングで実施しています。第2学年では、数学、英語で少人数授業を実施しています。

また、学力差の大きい数学、英語では習熟度別授業を実施し、国語、家庭、情報、商業はチームティーチングで授業を実施しています。

##### ウ 高大連携

近隣の清和大学との連携により、教職を目指す学生を週1日（毎週木曜日）学習サポートボランティアとして派遣していただき、学び直しの科目である「ステップアップ」での学習支援や、通常授業の補助などをお願いしています。

学習サポートボランティアを加えた指導体制を構築することで、生徒へのきめ細かい指導を可能とするとともに、将来教職を希望する大学生にとっても学校現場を知る貴重な経験となっています。

## 2 実践的なキャリア教育

### (1) 泉高等学校

#### ア 「産業社会と人間」の導入

学校設定教科「産業社会と人間」を1学年と3学年で各1単位ずつ分割履修という形で導入し、体系的にキャリア教育プログラムを実施しています。

第1学年では、学期毎にテーマを設け、ジョブカフェちば、ちば地域若者サポートステーション、千葉県生涯学習センター、NPO法人企業教育研究会、公益社団法人誕生学協会などの外部機関との連携により、特別授業を展開しています。

なお、設定テーマは、1学期が「対人コミュニケーション能力の涵養」、2学期は「就業意識の育成」、3学期は「良き家庭人としての資質の涵養」としています。

#### イ インターンシップの拡充

望ましい勤労観や職業観を育成するためには、インターンシップが効果的であるという報告に基づいて、従来から希望者を対象として実施してきたインターンシップを拡充して実施しています。

なお、実施に際しては、本校に配置されているキャリア教育支援コーディネーターの協力の下、ちば地域若者サポートステーション等外部機関の協力を得ながら、事前・事後指導を含めて丁寧に行っています。

### (2) 天羽高等学校

#### ア 「総合的な学習の時間」の活用

第1学年において、「総合的な学習の時間」を2単位設定し、社会との関わりを通して、自己の在り方・生き方を学習しています。

#### イ コミュニケーション能力育成プログラム

コミュニケーション能力の育成を目指して、外部講師（子どもと親のサポートセンター所員等）による出前授業を年間15回実施しています。

#### ウ インターンシップ

第2学年の生徒全員を対象として、地域事業所において3日間のインターンシップ（就業体験）を実施しています。

#### エ 外部教育機関講師による進路講話

ジョブカフェや地域若者サポートステーションなど専門機関から外部講師を派遣していただき、進路指導を実施しています。

#### オ ボランティア活動の推進

地元住民との交流を通じ、生徒のコミュニケーション能力を育むために、ボランティア活動の機会（市商工会と連携しての伝統行事「湊川灯籠流し」の企画運営等）を多数設定しています。

### 3 地域との連携

#### (1) 泉高等学校

ア 広報活動の充実（ホームページの定期的な更新、小中学校訪問、地域社会への情報発信）  
イ 東京情報大学学生による学習サポートボランティア（学び直し）及び同大学からの教育実習の受け入れ

ウ 地元企業でのインターンシップ

エ 農業体験の実施（2学年）

学校に隣接する畑を借用して、他の県立農業高校と連携し、地元農家からの支援や、地元JA等による指導を受けながら、農業体験（作物作り）を実施しています。

オ 推進協議会の設置

学校外の意見を広く取り入れるため、地域関係者や学識経験者等による「推進協議会」を設置しています。

なお、協議会は、地元商業施設管理事務局長、地元在住元中学校長、NPO法人事務局長、地元スポーツ施設代表取締役、千葉市青少年サポートセンター所長、地元企業代表取締役、ちば地域若者サポートステーション統括コーディネーター、保護者会副会長、同窓会長、学識経験者等によって構成しています。

#### (2) 天羽高等学校

ア 農業体験

千葉県君津農業事務所、農業まるごと体験塾「相川風と緑の里」の協力を得て、落花生、サツマイモ、枝豆（小糸在来）の栽培に取り組み、命の大切さ、収穫の喜び、生産者への感謝の心などを体感することができました。また、収穫の一部を近隣住民に生徒が配付し喜ばれました。

イ 天高防災デー（大学と連携した地域防災教育）

地域防災をテーマに地域の方々と共に考える時間を作ります。首都大学東京の指導・協力を得て、モバイル教材を駆使した防災の授業を展開します。地域関係者に授業を公開しながら、生徒は地理的条件を鑑み防災意識の向上を図ります。

ウ 地域に密着した部活動プログラム

- ・吹奏楽、合唱部の出前演奏会
- ・サッカー部の地元小学生クラブや中学生への指導
- ・野球部の地域美化ボランティア
- ・バレーボール部の通学路清掃、学童ボランティア
- ・相撲部の実技指導

エ 地域行事の企画、協力、参加

- ・芸術展「もみじまつり」の小中高連携
- ・湊川灯籠流し
- ・さぬき夏祭り

オ 地域教育力の活用

- ・太巻き寿司、米粉料理、魚料理講習会（地元料理サークル、漁業協同組合から講師を招いて、生徒向け講習会を開催）
- ・伝統遊び教室（地元工務店の社長を講師に招いて、生徒向け竹馬作り教室を開催）
- ・絵本読み聞かせ講習会（富津市読み聞かせサークルから講師を招いて、授業支援実施）

カ 本校の教育力の提供

- ・高宕山自然動物園の装飾活動
- ・湊中央保育所の装飾活動
- ・地域ボランティア活動（通学路清掃、湊海岸清掃）
- ・小中高連携（キッズ料理教室の開催、合同津波避難訓練、出前授業 等）

#### 4 独自の入学者選抜

地域連携アクティブスクールでは、「中学校で能力を発揮できなくても、高校では頑張ろうとする意欲を持った生徒を自立した社会人として育てる」という趣旨を踏まえ、人間性や学ぶ意欲を重視する独自の入学者選抜を実施しています。

具体的には、以下のとおりです。

(1) 泉高等学校

一期選抜：1日目は国数英3教科の学力検査と作文、2日目は面接を実施

二期選抜：国数英3教科の学校独自問題と面接を実施

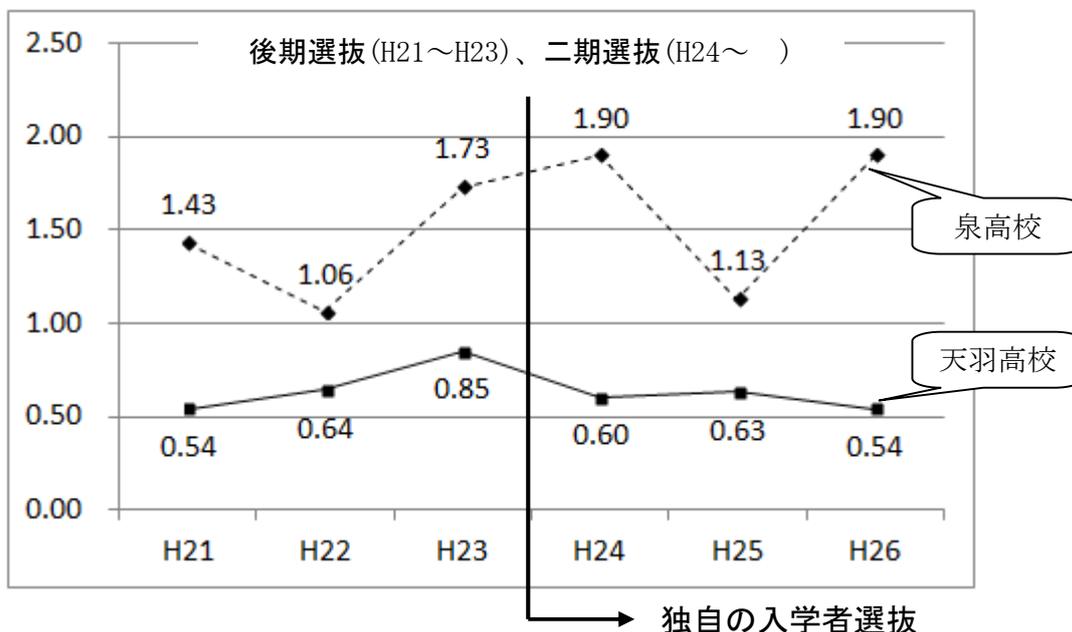
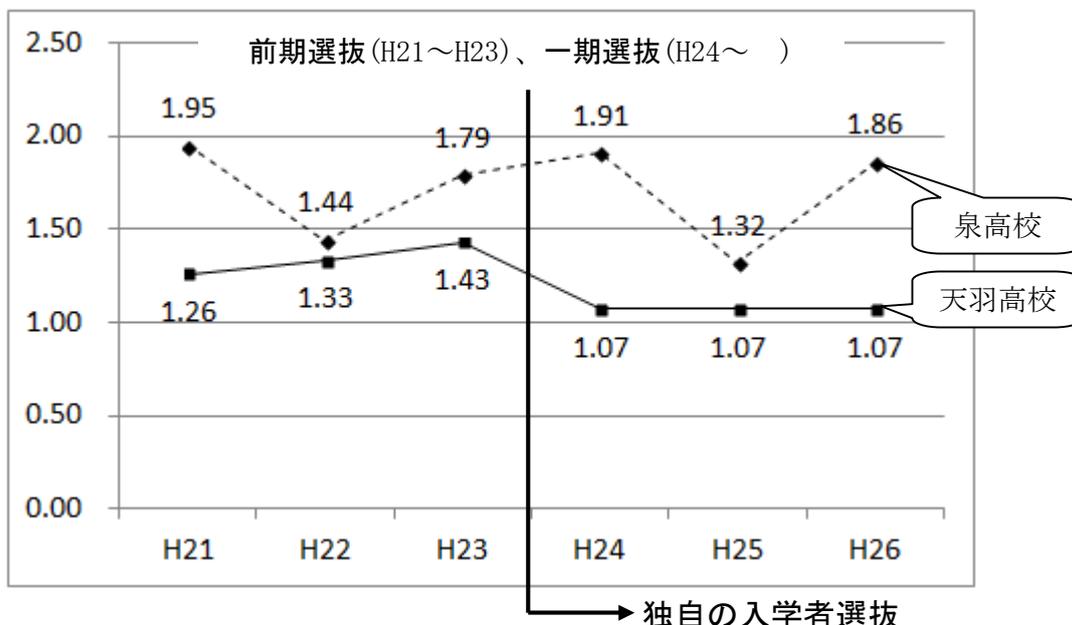
(2) 天羽高等学校

一期選抜：1日目は国数英3教科の学力検査と作文、2日目は面接と自己表現を実施

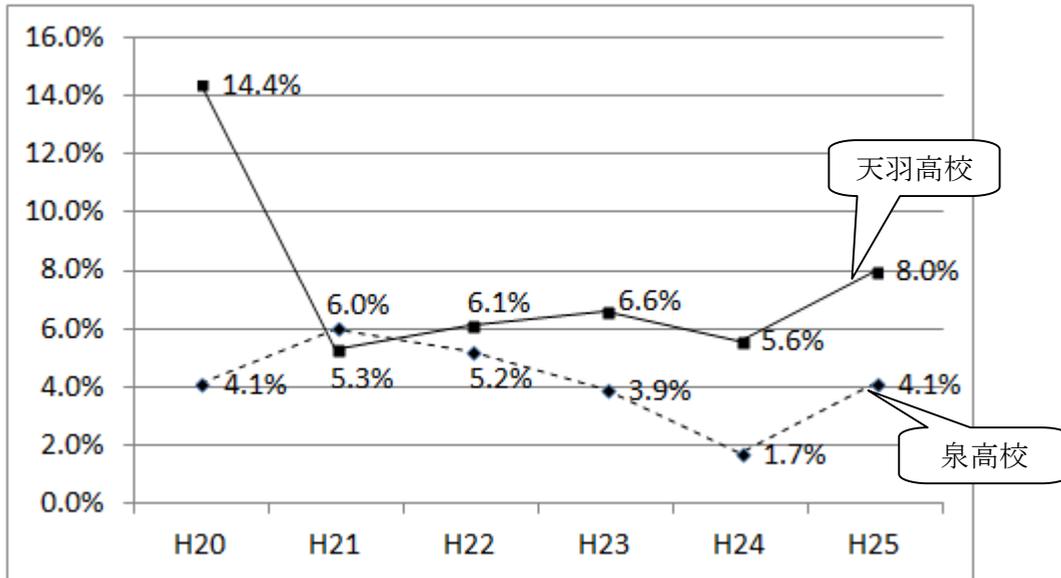
二期選抜：口頭試問と面接を実施

#### 5 基礎データ

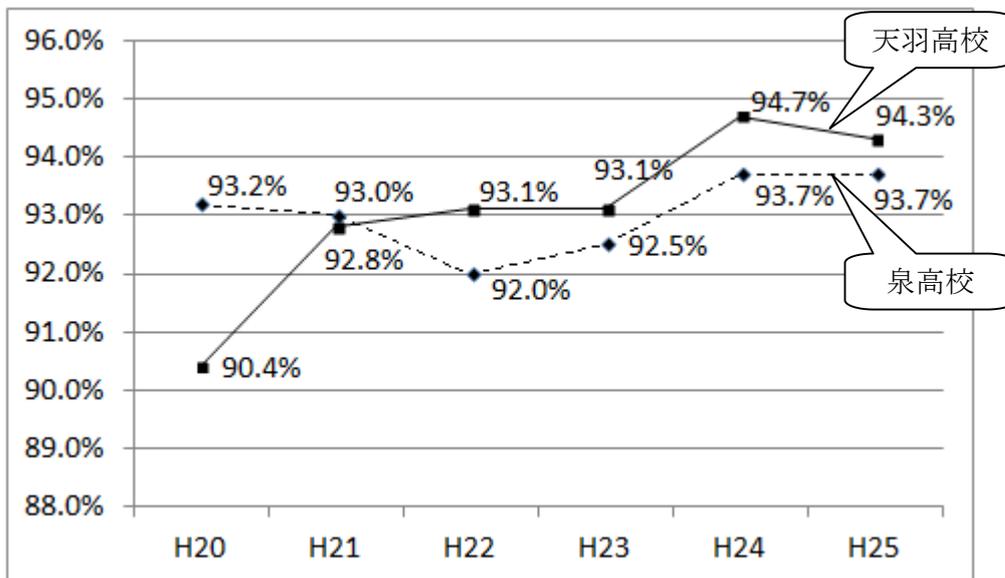
(1) 志願倍率の推移



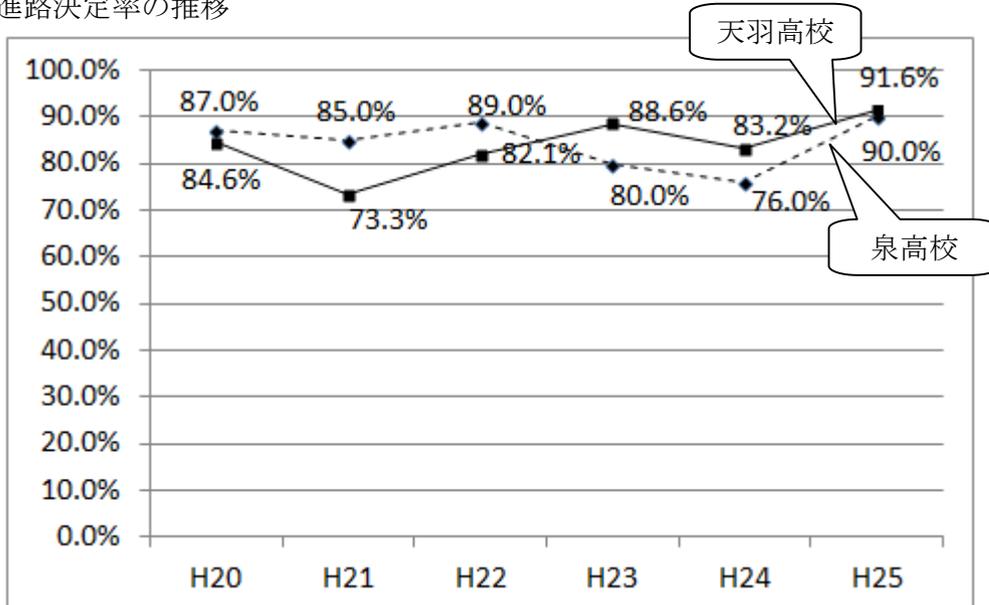
(2) 中退率の推移



(3) 出席率の推移



(4) 進路決定率の推移



### Ⅲ キャリア教育支援コーディネーター（以下「コーディネーター」という。）の活動状況

地域や関係機関との連絡調整を図るキャリア教育支援コーディネーターについて、「活動状況」「成果」「課題」「配置の必要性」の4つの観点から、両校にまとめていただきました。

#### 1 泉高等学校

##### (1) 活動状況

- ・進路指導室に常駐し、インターンシップ受け入れ先とのコーディネート役を主な目的に活動しています。インターンシップは、6月と10月に3日間ずつ設定されています。コーディネーターとして、この予定日に協力してもらえる企業を探すが、重要な業務になっています。現在、30社以上の企業を継続して訪問し、受け入れの協力を確保しています。
- ・他校の職員を対象とした研修会の講師やインターンシップ受け入れ企業での講演、就職希望者への面接指導、地域住民や保護者との交流会議への参加等も行っています。
- ・進路指導部の地域連携の窓口であるキャリア・サポート・デスク<sup>\*</sup>(CSD)の一員として、外部資源の有効な活用方法の模索や生徒への直接指導へも活動範囲を広げ、中心となるCSDスタッフ(教員)への後方支援なども行っています。

##### (2) 成果

- ・新たに開拓したインターンシップ受け入れ企業は40社以上にのぼりますが、現在受け入れ可能な企業は30社程度になりました。拡充が望まれることから、新たな受け入れ先を開拓しています。
- ・インターンシップに参加する生徒に対して行う事前・事後指導にも直接関わっており、事後のアンケート調査からも指導内容がインターンシップに活かされている成果が読み取れます。
- ・企業側との交渉の際に、学校側がキャリア教育の重要な機会としてインターンシップに厚い期待を寄せていることなどを説明しています。また、十分趣旨を理解してもらえるようアクティブスクールの理念についても説明を加え交渉を行っています。

##### (3) 課題

- ・インターンシップ受け入れ可能な企業は、さらに新規開拓する余地もありますが、生徒からの参加希望がなければせっかく開拓した受け入れを断ることになってしまいます。希望の偏りから何回も断り続けざるを得ない受け入れ企業もあります。
- ・「産業社会と人間」の教科内容も含め、キャリア教育全般にわたり、生徒への直接的な関わりや指導の機会を増やし、他の教員と連携を密にしながら進める必要があります。

##### (4) 配置の必要性

- ・民間企業の実情を熟知するコーディネーターは、様々な企業とのつながりを生み出すかけがえのないスタッフです。インターンシップについて、準備から実施、事後指導、次年度への継続まで包括的に担当することは、一般企業での幅広い経験に裏打ちされ、企業側の事情にあわせてニーズを見極める腕を持たなければ非常に難しいと考えます。
- ・民間出身の指導者として、教職員とは異なる角度で生徒に語りかけ、「進路の先生」としての存在はもとより、一般社会の空気を知っている先輩としての的確なアドバイスを豊富に提示してくれます。社会の側から生徒の意識に迫り、生徒の勤労意欲を育て社会につなげる手法をとれる唯一の職員です。
- ・地域の企業や関係機関とつながり、生徒に自立のために必要な学習の機会を具体的に与え、より確かな一歩を踏み出せる力を育むコーディネーターは、地域連携アクティブスクールの掲げるキャリア教育推進のために、欠くべからざる存在となっています。

---

<sup>\*</sup> キャリア教育に関すること（インターンシップ、キャリア教育関連の学習について）を行う係。生徒の進路指導やインターンシップの指導を行う部署

## 2 天羽高等学校

### (1) 活動状況

地域連携アクティブスクールの教育活動の中核であるキャリア教育の意義と、それを推進するコーディネーターの役割について深く理解し、以下の様に地域の関係機関、企業との調整を行っています。

- ・ 求人企業等との情報交換
- ・ 農業体験活動における地元農家や関係機関との連絡調整
- ・ インターンシップ受け入れ企業との連絡調整
- ・ 地域連携アクティブスクールとしての天羽高等学校に係る広報啓発活動
- ・ 生活コースにおける、地元産の農水産物やそれを使った郷土料理の調理技術を学ぶ実習に係る調整
- ・ 地域連携行事に係る連絡調整

### (2) 成果

- ・ 地元の企業を訪問して、50 か所以上のインターンシップ受け入れ企業を確保し、2年生全員のスクールインターンシップ実施に貢献しました。
- ・ 当初から農業体験活動に係る調査に従事し、圃場の確保、経費の見積り、地元の農業体験塾「相川風と緑の里」との協同体制を構築して、平成 24 年度入学生から農業体験を実施することを可能としました。
- ・ 生徒の「顔」や学校の教育方針が地域に見えることを重視して、地元の伝統行事である「湊川灯籠流し」への生徒の参画を果たしたほか、生徒の活動を発表する場を創出しました。
- ・ 毎月 49 地区の区長宅を訪問し、学校便り「天高通信」の回覧を依頼することにより、4,900 世帯に回覧できるようになりました。
- ・ 地元のロータリークラブと学校の協力関係を構築し、情報交換の場を設けるとともに、そこでの話し合いをもとに本校教育活動への助成が得られるようにしました。
- ・ 家政コースを選択した生徒の調理技術向上と地元水産物への興味・関心などを高められるよう、行政や漁業協同組合との協同体制を構築して、食材や講師などの手配等を行いました。

### (3) 課題

- ・ 複数年を見通した、校内体制づくりが必要です。
- ・ 現在、「実践的なキャリア教育」において大きな成果を上げているのは、コーディネーターの人選等のおかげです。今後も、事業を推進していくためには、継続的な配置が必要です。
- ・ 学校外では「キャリア教育」が「職業選択」あるいは「職業訓練」などと同義にとらえられることが多く、正しい理解を得るための広報・啓発活動が必要です。

### (4) 配置の必要性

- ・ 緒に就いた事業を継続、発展させていくために、コーディネーターの存在は不可欠です。
- ・ 地元での人脈、人材を含めた地元リソースに対する深い知識など、とても教員の力で代替できるものではありません。専門性を生かした指導等の質を高め、学校が新たな取組を始めるためのモチベーションを高めるためにも是非とも必要な役割です。

## Ⅳ スクールソーシャルワーカー（以下「SSW」という。）の活動状況

課題を抱える生徒に対して外部機関と連携しながら、より多面的に支援を行うスクールソーシャルワーカーについて、「活動状況」「成果」「課題」「配置の必要性」の4つの観点から、両校にまとめていただきました。

### 1 泉高等学校

#### (1) 活動状況

- ・担任から継続ケースの状況や新規に問題となっているケースの概要を聞き、できるだけ早く生徒との面接を実施し、今後の見立てを行います。早急な手立てを要するケースには、勤務時間の内外に関わらず、保護者や関係機関と連絡をとります。
- ・保護者や本人と連絡が取れない状況が続いた際には、学年職員と共に家庭訪問を行う場合もあります。
- ・社会的養護施設（児童養護施設・母子生活支援施設・児童相談所等）に関係している生徒とは、月1回面接を実施し側面的な支援を心がけています。
- ・校内の教育相談連絡会に出席し、情報交換や事例検討を行います。
- ・木曜日はスクールカウンセラー（以下「SC」という。）も出勤（勤務日は月曜日と木曜日）しているため、教育相談担当職員も含め、情報の共有を行います。

#### (2) 成果

- ・SC、SSWの両者が配置されていることにより、生徒及び保護者に対して心理的サポートだけではなく社会的サポートを行うことができます。特にSSWが職員と協同し、生徒を支援したことから、その職員が生徒の置かれている環境を理解し多面的に支援できるようになっています。
- ・登校継続が困難な生徒が継続可能となった事例では、SSWが幅広くかつ積極的に外部専門機関や地域支援者などと連絡・調整を行っていることが職員に理解され、職員間に学校外の機関等との連携の重要性が強く認識されるようになりました。
- ・社会的養護施設関係の方々を持っている福祉的な情報やアフターケアの方法をSSW自身が学び、生徒との面接への活用や、教職員の施設に対する理解が促進されました。

#### (3) 課題

- ・生徒の抱える問題に一旦介入したら、それぞれのケースをきちんと終結させるまで継続することが必要です。常駐の形の勤務状況が望まれますが、現状は限定的であり、断続的な関わり方が、場合によっては新たな問題の発生につながるものが危惧されます。
- ・SSWが行き詰った時や判断に苦慮する時など、SSWが指導助言を受けられる環境の整備が必要です。

#### (4) 配置の必要性

- ・SSWの配置により、関係機関との連携が飛躍的に高まっています。具体的には、アドバイスを受けた教育相談係や養護教諭、学年関係職員等の関係機関への対応が適切で効果的なものになっており、昨今増えつつある生徒の精神的な問題と家族の経済的な問題が複合しているケースの解決に繋がっています。問題解決にあたり継続性を必要とするケースが少なくないため、SSWの継続的な配置が必要です。
- ・家庭環境に困難を抱える生徒への対応として、行政や関係機関に働きかけることにより問題が整理され、それが生徒の自立へとつながるため、環境に働きかけることを主とするSSWの常駐配置は必要です。
- ・いわゆる「卒業クライシス（危機）問題」を抱える生徒の卒業を目指すためには、社会の様々な支援の機会を活用して貧困連鎖を防止する必要があり、SSWの果たす役割は大きいです。生徒の生きてきた背景や福祉の見地、環境へのアプローチに長け、適切な支援のリソース（資源）をあてがい、一人の生徒を様々な角度から支援することに力を発揮するSSWの継続配置が必要です。

## 2 天羽高等学校

### (1) 活動状況

- ・主に対応しているのは、不登校、虐待、家出、経済的に困難な家庭の生徒、児童養護施設から通学している生徒、進級の難しい生徒、発達障害の可能性があり就職でつまづいている生徒、授業に出席できない生徒、学校内の人間関係でつまづいている生徒、学校生活に関するアンケート結果で対応が必要とされた生徒などです。対応のきっかけは教員からの依頼に限らず、生徒自身から、授業見学・部活動への参加に際し、直接依頼を受けることもあります。
- ・教員の相談にも積極的に乗り、メンター（相談相手）的な役割を担いつつ、教員の生徒対応における負担軽減に貢献しています。
- ・養護教諭、SC、特別支援教育コーディネーターと連携を取りながら、個別の教育指導計画の作成を行い、その後の対応についてコーディネートを行っています。加えて、事例検討会など生徒への支援とともに、学校の教育力向上に力を発揮しています。
- ・その他、市役所の障害者総合自立支援協議会への参加を通じた小中学校及び諸関係機関との連携、教育事務所、行政機関や福祉関係機関など地域のリソース（資源）の開拓に取り組み、協力関係の構築を推進しています。また、千葉県子どもと親のサポートセンターと連携し、生徒向けのソーシャルスキルトレーニングの授業構築・データ分析に貢献しています。

### (2) 成果

- ・学校の敷地内に入ることさえも困難であった生徒が、教育相談室への登校（週1～2日）を長期的に継続した結果、自宅から出て人と接するアルバイトをすることができるまで回復しました。
- ・家族間の問題に加えて、経済的に困難な家庭の生徒について、民生委員と協議を重ね、無事就職内定をもらうことができました。
- ・発達障害の可能性があるために、進路指導に行き詰っていた生徒に対し、ハローワークへの訪問を提案し、担任とともに同行しました。これをきっかけに、生徒は就職に向けて意識が向上し、加えて学校全体の就職指導のスキルが向上しました。
- ・相談機関との関係に不満を抱いている生徒に対し、職員や担任と連携を取りつつ、相談機関に限らず学校でも必要ときに相談できる体制を作りました。
- ・学校に登校できない生徒に対して、県の教育機関を紹介し、通所を促すことにより、進路変更後のサポートにつなげることができました。進路変更後、通信制高校を卒業し、現在専門学校へ通っています。

### (3) 課題

- ・常勤ではないため、日々変化する生徒の状況に対応することが困難です。
- ・勤務時間が少ないため、対応事例数を制限しなければならない状況にあります。

### (4) 配置の必要性

- ・SSWの活動により、今までであれば安易に学校を辞めていた生徒が退学を思いとどまり、手厚い指導ができるようになりました。
- ・教員の意識も今まで以上に生徒の家庭へ向き、生徒の状況をサポートしようと外部機関への関心が高まりました。今まで教員のみで行っていた、生徒や保護者への対応が分担され、専門性に裏付けられた、環境への働き掛けが可能になりました。
- ・教員にも生徒たちにとっても頼れる存在が増え、学校全体の運営が外部機関との連携を始めスムーズになりつつあります。今後、地域連携アクティブスクールとしての学校を機能させるためにも、SSWの常駐配置が重要となります。

## V 地域連携アクティブスクールの成果と課題（成果：下線、課題：網掛け）

地域連携アクティブスクールである泉高校と天羽高校のこれまでの取組状況及び各種アンケート調査や聞き取り調査等の結果を踏まえ、その成果と課題を整理しました。

### 1 学び直し（学ぶ意欲に応える学習指導）

学び直しについては、泉高校は「ベーシック」、天羽高校は「ステップアップ」をそれぞれ学校設定教科・科目として設けるとともに、少人数指導や習熟度別授業など、きめ細かい指導を実施しています。

生徒及び保護者を対象としたアンケート調査では、学び直しに対する期待は大きいことが伺えます。地域連携アクティブスクールを志願した理由として「学び直しがある」をあげた生徒・保護者が最も多く、また学校生活においても「学び直しの授業」に対する満足度は、生徒・保護者ともに非常に高くなっています。（資料 p17 p20, 21 参照）

さらに、中学校を対象としたアンケート調査においても、良いと思う特色として「学び直しができる学校」とする回答が最多となりました。

しかし、学校設定教科・科目による学び直しについては、授業方法についても手探りの状況にあることから、基礎学力を確実に定着させるため、3年間を見通した実施方法や教材について研究する必要があります。

### 2 実践的なキャリア教育

キャリア教育については、「産業社会と人間」（若しくは同様の学び）を導入し、系統的な指導を実施するとともに、外部人材を活用した講演会や体験的な学習、地域企業等の協力によるインターンシップなどを実施しています。

生徒及び保護者を対象としたアンケート調査では、充実した進路指導に対する肯定的な意見がある一方で、志願理由や満足度の数値については、必ずしも十分な結果とはなっていません。

中学校を対象としたアンケート調査においては、「地域と連携し、キャリア教育を行っていることで、生徒の心が育っているように思った」、「地域連携のインターンシップの一層の充実拡大に期待する」などの意見をいただきました。

今後は、現在実施しているキャリア教育の更なる充実を図るとともに、より効果的なキャリア教育の在り方や実施状況の広報などについて検討する必要があります。

### 3 地域との連携

地域連携には、「地域の教育力を学校へ提供してもらおう連携」と「学校の力（教育力）を地域へ提供（貢献）していく連携」があり、両校とも地域との連携による教育活動に積極的に取り組んでいます。

生徒及び保護者を対象としたアンケート調査では、「地域の方々と触れ合う機会があり、とても良かった」、「地域の方と交流する機会が増え、コミュニケーション能力を高めることができた」、「これまで以上に地域の方々と触れ合う機会を設けていただきたい」などの意見がありました。

中学校を対象としたアンケート調査においては、「地域の学校として多方面と連携して様々な取組をしているので、魅力的だと思う」などの意見をいただきました。

今後、現在の地域連携の取組について内容の吟味を図り、「地域の教育力の活用」と「地域への貢献」を踏まえた教育活動の在り方について引き続き検討する必要があります。

## 4 独自の入学者選抜

地域連携アクティブスクールでは、「中学校で十分力を発揮しきれなかったけれど、高校で心機一転がんばりたい気持ちを持った生徒を自立した社会人として育てる」という趣旨を踏まえ、人間性や学ぶ意欲を重視する独自の入学者選抜を実施しています。

中学校を対象としたアンケート調査においては、入学者選抜について「現状のままでよい」とする回答が8割を超える結果となりました。

当面は、現状の入学者選抜を維持しつつ、生徒の状況等を見守りながら、地域連携アクティブスクール設置の趣旨を的確に踏まえた入学者選抜の在り方について、引き続き検討する必要があります。

## 5 支援体制

### (1) キャリア教育支援コーディネーター

実践的なキャリア教育の実施に向けて、学校以外の分野で培った経験や人脈をいかして学校と関係機関との連絡調整を図るため、民間企業や行政等の経験者をキャリア教育支援コーディネーターとして配置しています。

キャリア教育支援コーディネーターの配置により、インターンシップ拡充のための企業開拓やインターンシップ実施の際の事前・事後指導、地域との連携による教育活動の展開などが進められ、実践的なキャリア教育の展開が可能となっています。

地域の教育力を活用した実践的なキャリア教育を推進するためには、民間企業や行政などで活躍し、幅広い経験や知見を有する人材は不可欠であり、コーディネーターの継続的な配置と運用のための予算確保が必要となります。

### (2) スクールソーシャルワーカー

様々な困難を抱える生徒に対して、生徒本人と向き合うだけでなく、家庭や行政、福祉関係施設など外部関係機関等と連携しながら、生徒を取り巻く環境に働きかけるなど、より多面的に支援を行うため、スクールソーシャルワーカーを配置しています。

スクールソーシャルワーカーの配置により、子どもと親のサポートセンターや市役所、児童相談所、発達障害者支援センター等の関係機関との連携が深まり、生徒の抱える課題に対して、より適切な対応が可能となっています。

困難を抱える生徒に対して、スクールソーシャルワーカーの配置が効果的であることは既に実証済みであり、継続的な配置と運用のための予算確保が必要となります。

### (3) 学習サポートボランティア

近隣の大学との連携により、将来教職を目指す学生を学習サポートボランティアとして派遣していただき、学び直しの授業や通常授業での生徒個々への支援を依頼するなど、生徒へのきめ細かい指導を実施しています。

学習サポートボランティアからの意見聴取では、貴重な経験となっているという肯定的な意見がある一方で、授業での補助に当たって授業担当者との緊密な連携体制の構築が必要であるなど、改善を求める意見もありました。

この制度は、生徒へのきめ細かい指導を可能にするとともに、ボランティアとして参加している学生にとっても学校現場を知る貴重な経験となることから、継続して実施していく必要がありますが、ボランティアからの意見聴取を踏まえ、実施方法の改善が課題となっています。

## Ⅵ 地域連携アクティブスクールの今後の展開

### 1 魅力ある学校づくりに向けた改善点等

地域連携アクティブスクールは、「中学校で十分力を発揮しきれなかったけれど、高校で心機一転がんばりたい気持ち」を受け止め、自立した社会人を育てる新たなタイプの学校であり、設置に向けた研究を踏まえ、理念実現に向けて様々なシステムを導入しました。

そして、今回、両校の取組状況やアンケート調査、聞き取り調査等の実施により、両校のこれまでの取組について一定の成果が確認されましたが、より県民のニーズに応え、魅力ある学校となるためには、システム・取組の更なる改善が必要だと考えられます。

このため、地域連携アクティブスクールの今後の指針として、「4つの柱」、「目標」及び、「目標達成に向けた具体的なシステム等」を以下のとおり整理しました。

4つの柱	目 標	目標達成に向けた具体的なシステム等
学ぶ意欲に応える 学習指導 〔 学び直し 〕	・ 基礎学力の定着を図り、生徒の満足度を高める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「全学年で2単位（20分×5日/週）実施」や「1学年で3単位（50分×3日/週）実施」など、学び直しの明確な位置付け</li> <li>・ 少人数授業の実施</li> <li>・ 教員の指導力向上に向けた研修会の実施</li> </ul>
実践的なキャリア教育	・ コミュニケーション能力や倫理観を身に付ける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「産業社会と人間」の導入による系統的なキャリア教育の実施</li> <li>・ 生徒全員を対象としたインターンシップの実施</li> <li>・ ソーシャルスキルトレーニングの計画的な実施</li> </ul>
地域との連携	・ 地域とともに歩む学校づくりを進める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大学との連携による学習ボランティアの積極的な活用（大学生への丁寧な事前指導の実施など、より効果的な活用方法について検討）</li> <li>・ 異校種との積極的な交流</li> <li>・ 地域の教育力を活用した体験学習の実施（農業体験 等）</li> <li>・ 推進協議会の開催（横のつながりの構築）</li> </ul>
独自の入学者選抜	・ 人間性や学ぶ意欲を重視する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>《一期選抜》 学力検査（国英数）、作文、面接</li> <li>《二期選抜》 学校独自問題（口頭試問も可）、面接</li> </ul>

なお、困難を抱える生徒を支援するため、4つの柱とともに、スクールソーシャルワーカーが効果的に機能する教育相談体制の構築など、校内体制の更なる充実を図る必要があります。

今後は、本県の新たなタイプの学校としてスタートした地域連携アクティブスクールが、より魅力ある学校となるよう、継続的なシステム運用に向け支援に努めるとともに広く県民に周知を図るため、引き続き広報に取り組んでまいります。

### 2 今後の新たな設置について

県立学校改革推進プランでは、地域連携アクティブスクールを「4校程度設置」することとしました。既設校の泉高校及び天羽高校に続き、平成27年度、船橋古和釜高校と流山北高校に設置し、併せて設置校は4校となりました。

今後の新たな設置については、今回取りまとめた評価や地域バランス、県民ニーズ等を踏まえながら、引き続き検討してまいります。